

の存する所には自ら軍隊を備へざるべからず
然るに日本又ホニエント海に其兵を上陸せし
めんとするに之より吉村に向け物産乏しき
地方に陸路の道路を経て敵自軍の阻其兵を動
す前哨の捕獲を包圍するに於て之に三萬
の兵を分たざるべからざるなり然れども諸批
隊が此報を傳へし之に關して其心中に種々
の濃厚なる想像を起したるより察すれば其
報が人の心を他に轉向せしめたるの轉た大な
るものあるを思はざるべからず殊に右風説の
一連宣教師より出でたるを記憶するに於て
益々然りとす之に依りて之を見れば戰時に巧
に工夫して虚報を放てば其結果の如何なる
ものなるか略ぼ之を察するを得べし

旅順口の争奪

日本の旅順口を奪はんを欲するものなるも
は我々依然之を確信せんとす日本は旅順口を
以て千八百九十四年の國際閉塞に依り其手
より横濱されたるものなりとし戰勝の權利に
依りたが其有に歸したるものを回復せんが
爲め之が計畫を行ふに於て其國民の名譽を傷
けて旅順口に攻撃を試みるに當りて必然の根
據地は其千八百九十四年に於て然りしが如く
アルニ及び大連灣なるべし露國も亦必ず此
事實を知曉すべきを以て我等は露國が此地よ

り撤退したるの報に對し聊も信を措くも能
はず殊に今や旅順口の前方防禦は此地點に至
るまで既に加へられたるに於て之を奪ふべし
んば日本はアルニを略し同海を斷制する防
禦の要地より諸兵を放逐せんことを謀るべし
然れども此攻撃は半島の東面より行はるべき
や將た西面より行はるべきや將た又同時に兩
面より行はるべきや更に其敵すべき形跡を認
めず兎に角日本が奉天に向け其主力軍隊を進
むるに當り牛莊を以て其安全なる根據地に充
用し得るに至るは旅順口の露國守備隊が海陸
兩面より閉鎖されたる後ならざるべからざる
なり目下露國に於ける日本軍は平壤より元山
に至る鐵路に其地位を確立し鴨綠江に向け前
進し此方面に於ける陣地に露軍を牽制し居れ
るを以て我等はアルニに對する強大なる攻
撃の天候回復と同時に行はれて以て旅順口に
於ける露軍の全然包圍するに至るを見るを
豫期し得べし露國のステツセル將軍も亦蓋し
之を豫期し居れるものゝ如く稍や異色ある布
告を發し其軍隊に通告するに三面は海にして
殘る一面の敵なるを以てしたる何は將軍は之
に附言して戦ふ外更に爲すべき道を有せざと
云ひ又其決して投降を命ぜざるべきを告げた

敵の未だ攻撃を行はんとすして上陸せざる
當り投降を云ふは露國の極端な弱さを露
兵に決して他の道なきの故を以て露國は
るべからざるを警告されざるべからざる
はあらざるべし其戦ふべくして且つ死戦す
ざるものたるは殆ど確信するに堪へたり
露國の防禦の利便を有するに堪へたり
の名を辱しめざる防禦を爲すを得べし
古來よりの名譽一に保りて此地の防衛にあり

タイムスの日露戦争批評 (十六)

タイムスの軍事批評家は其三月九日の紙上
に論じたる所左の如し
浦鹽斯德砲擊

浦鹽斯德砲擊

二月二十五日旅順口沖の戰闘後日本艦隊は二
十六、二十七の兩日中同要塞の附近に駐留し
二十八日に至りて遂に退去せり我が東京通信
員よりの電報に據るに海洋砲は二十九日右艦
隊の占領する所となりたりと云ふ東郷提督の
艦隊は同島の西岸ソントン嶺地に於て一時
風波を避けたるものと最早や疑を容れざるなり
三月六日午前七隻の日本軍艦浦鹽斯德港沖に
現はれたるものと及び午後に至りて砲撃と云ふ
よりは對し示威運動の此等軍艦に依りて同港
に行はれたるものと自然に露人をして東郷提
督の北方に去りたるを思はしめ尙ほ十二時
砲の之に向け發射されたる事實は蓋し同提督
の戰闘艦の攻撃に加はりたるを信ぜしむる
に至れり我等は尙ほ旅順口の戰闘艦の通航
に對して充分故障なきや如何を知るも能は
ず又同時に露國軍艦中その若干隻の現狀に對
して多少の疑を存するものなり然れども報ぜ

られたる事實に據り又事情の説明する最も確
なる證據に従ひて我等は未だ日本が其主力艦
隊を移して之を千哩の距離に致すに堪へたる
が如く露國艦隊の若かく無能力なるに至りた
るを信する能はず殊に軍隊の輸送が旅順口よ
り頗る近距離なるの地に行はれんとすると最
も明白なる今日の場合に於て然りとす是れを
以てか我等は信せんとす東郷提督は適當の距
離内に止り露國の襲撃を來らんことを之を豫
期せざる迄其之をあらんと欲望し居れる
ものなるを提督の艦艇を以て既に運送船護送
の爲め分散されたるものなりと見るは亦不可
なり運送船に對する追害は露國艦艇の發射せ
る二重砲よりする外他に聊かも存するとなし
唯だ兩港の外部に於て見張りをして存せば
萬事即ち足る而も有力に之が危険を防止する
ものと得べし東郷提督なるもの露國最長軍艦
の其目に觸るゝものと又之を國ふものとなく
して決して外洋に出づるものにあらざるを確
保し得ば即ち其業既に成れるなり縱しや若干
隻の露國艦艇冬の暗夜に乘じて密に逸出す
るものとあるも各國の運送船隊に附するに二三
隻の巡洋艦一隻と二隻の驅逐艦とを以てせば
優に之に抗戦せしむるに堪へたり

絶東總督の報する所に從ふに浦鹽斯德港沖に
現れたる日本艦隊中には甲裝巡洋艦出雲あり
又八雲あり其他の軍艦に至りては露國將校
れが艦名を知るも能はざりしと云ふ思ふに
日進、春日の二艦みの中に存したりしならん
二艦の形狀は露國將校或は之を知るも能は
ざりしなるべし其日本に到着したるよりの日
數を算するに二艦は去月中旬頃に於て早く殺
傷に死くを得たりし事なり
露國側より出でたる其後の報に據れば右日本
艦隊は一隻の戰闘艦、四隻の甲裝巡洋艦及び
二隻の無甲裝巡洋艦より成りたりと云ふ或は
然りしならんか此艦隊はウッリ灣より浦鹽斯
德に近接し金角門に至らんとする東洋マッ
オラスの東南面に向け走り午後一時二十五
分に於て七隻中の五隻はスヴァロフ、リニ
ヴィツチの兩砲臺に向け及びオビアツスチニ
エ河平原より市街と港内に向け其發砲を行ひ
五十分間にして停止し南方に向け走り去
れり同時二隻の日本驅逐艦はアスコルド錨を
搜索し又要塞を距る約三十哩なるマイデル岬
角附近の海岸よりウッリ灣の東南に至る間を
搜索せり七日に至り此艦隊再び出現し正午頃
その前日に於て砲撃を行ひたる地點にまで略
ば接近し來りたるも其後外洋に向け退却せり

春尚は浅き今日に於て斯くの如く結氷の妨ぐ
る所とならず近距離にまで接近し得たるは露
國に於てすら又意外とする所なり尙ほオース
トリアニエ河平原は砲臺の掩護も充足せる
所なるを以て露國公報の如何に拘はらず此地
の砲臺されたるは露國に同砲臺の不完全なる
を反照せしむるものならざるを得ずとす
多數兵營の存するは實に市街の此方面にあり
而して同平原はパトラス河の海岸を距る
二哩の地にあり故に露國砲臺が日本艦隊を注
て斯の如く砲臺後援最良の地に其砲臺を注
ぐに堪ならしめ之に應答するも之に之に何
等の損害を與へ得ざりしは實に異常の事實な
りといふべし然るべからず此方面に其砲臺は
彈程短し短なりしか或は又砲に初めより其準
備あらざりしか何れにするも守備隊に取り又
露國に取りて是る事にはあらざるべし
日本艦隊の行動は偵察以外何等の目的を有せ
ざりしものなるも頗る明白なり何となれば
パトラス河は市街及び港内に向け有効な
る砲臺を行ひ得べき地點にあらざるも有力に
端より端に至るまで鐵く港内を掃蕩せんとい
ふ欲せば西面及びアムール河よりして之を爲
さるべからざるなり砲臺攻撃の準備更に一
層整ふに於ては疑ひもなく日本は此行動に出

づるならん砲臺が一部分として砲臺を免る
るも能はざるの實既に斯の如くにして證明さ
れたる以上目下市街は甚だしく不安の念を感
じ居れるものなるべし
其の事件に對する趣味の中心は露國の巡洋艦
隊は其敵の出現したる當時浦羅斯河の港内に
ありしや將た外洋にありしや如何の問題にあ
りライツェンスタイン大佐の巡洋艦隊二月
二十九日を以て外洋に出でたりとは東京に於
て信ぜらるゝ所なり然れども之が證據は數日
前浦羅斯河より國籍に著したる一英國汽船の
傳へたる所報の存する以外一も存するものと
くして二月二十九日より三月六日に至る間に
於て露國巡洋艦隊は復た還るを得べき
なり日本軍艦の行動より察すれば露國巡洋艦
は港内にありたるものなるが如し然れども亦
その然らざりしを断定すべき證據必ずしも之
を集め得ざるにあらざるを何れにするも東洋
ボスフォラスには二箇の門口あり日本が當時
所有したりと想像するも所より更に一層強
大なる力を以てするにあらざれば之が出入共
に之を露國に遮斷するも決して容易の業に
あらざるなり
(此日の所報未定)

三月九日所報のつゞき

タイムスの日露 戦争批評 (十七)

露國海軍思想の幼稚

此間に當りてマカロフ提督は二月十六日クロ
ンスタットを發し三月四日を以て哈爾濱に達
せり思ふに既に旅順口に着きたるならん露國
海軍に取りて此際を爲すべき手段は一にして
足らずと雖も二分せる艦艇の力を併せて之を
一にするも目下の急務にして此動作の既に
計策中にあるは之を想像するに難からざるべ
し然れども海軍の問題に關し露國の心を推す
るの英人にありて頗る難きものあるは之を承
認せざるべからず現にクロンスタットスキ
ー

ウィーストニークは海軍戰術につきて奇異
なる思想を抱懷し艦隊の受動的態度を執ると
切要なるを論じて曰く「艦隊の斯の如くにし
て存在するは僅に我が軍隊の右翼及び後方を
掩護するに足りて又以て旅順口の鐵道聯絡
を保護するに堪へたり」と右露國新聞紙は此
受動的態度を以て其遼東半島の東方又は西方
に於てせんとする敵の上陸を妨止するを得と
なし又稱して曰く「露國艦隊の敵を搜索せん
として徒に出港するは轉た我が海岸線を擧げ
て敵の爲す所に委するに過ぎず」と

數語にして明白に海軍の無爲にして居らん
を徹するものなるを示すには蓋し之に過ぎ
たる語句あらざるべしクロンスタットの機
紙にして首端に於ける軍參謀院の多數意見を
表明するものなりとせば旅順口艦隊の不幸
を回復し得んといふは殆ど期し難きに似たり
殆ど我等の眼下に於て進行し居れる今日の事
件に研究を加へ我等は海軍戰術の事に於て海
國と大陸國との間に深くして測るべからざる
露國の存するを見る露國新聞紙より轉載した
る右の記事に依りて其抱懷せる海軍戰術及び
海軍戰隊の運用に關する概念なるものを窺ふ
に最近二十年間英米二國に於て思考されず
されば説かれたるものに比して全然相背馳す
るものあるを見るべし右の概念は即ち海軍技
術の河川時代(文明の進歩を三階段に分ち河
川時代、内海時代、大洋時代とするの說あり)
に屬するものにして我等は固より露國の既に
大洋時代に到達し得たるを想像するものに非
ざりしや而も尙ほ其内海時代と呼はるゝ中間
の階段にすら達し得ざりしとは思ひ難き事
所なり今に於て之を見れば我等は露國を
信じて過きたるの狀あり英國の所見とクロン
スタットスキークの所論とは
單に學派の相違なるのみに止らず思想、主

義、行動の上に於て根本より相違せるものな
り斯の如くにして現時の事件は英國の方法の
確に優等なりしを示すものにして我等は轉た
益々英國近世海軍の再興に於て才幹ある諸士
の恩恵、新聞紙の援助、人民及び議會の愛國
心に多く負ふ所あるを感せずんばあらざる
鳴鶴江據るに堪へず

然れども露國海軍機關紙の所論を以て出来上
りたる事實の論理に依りて之が可否を判せしむ
るは之を現代史の業に委せしめよ我等は進ん
で露國に進行中なる事件につきて推論を加へ
んことを欲す最近の報道に従へば海岸の結氷
は漸く解け初まりたるものゝ如く北は鎮南浦
まで其然るに至りしと最早や確實なり鎮南
浦は即ち日本が平壤に其兵を集中せんとする
に於て目下その根據地に供用し居れるものな
りコサック兵隊よりの情報に依れば日本兵日
毎に來着し其大兵集中するに至るまで敢て
進軍を初めざるものゝ如くなり云々双方
の地位につきて我等の知り得る限りより判
斷を下さば全軍隊の平壤より元山に至る線上
に集中され居れるは略ぼ察するに難からず然
れども此軍隊果して黒木將軍の率ゐる第一軍
隊なるべきや將た然らざるや之を確知する
を能はず三箇師團乃至五箇師團より成る三軍
隊の追々に組成するに當るは疑ふべからざる